



一般社団法人 日本スイミングクラブ協会

経産省の「次亜塩素酸水」有効性評価について

6月1日、経済産業省がNITE（独立行政法人製品評価技術基盤機構）に検証を依頼していた、新型コロナウイルスへの「次亜塩素酸水」の有効性評価に関する中間報告が発表されました。このなかで、次亜塩素酸水については、「今回の委員会では判定に至らず、引き続き検証試験を実施する」こと。空間噴霧については、「消毒液の噴霧を推奨しない」というWHOの見解を基に注意喚起がなされました。

今回、マスコミがこれを大きく取り上げ、一般の方のなかでは、塩素消毒が新型コロナウイルスに対して無効であるような誤解が生じています。検討委員会のファクトシート（頁最終*：参照）では、市販の「次亜塩素酸水」の販売実態と、「空間噴霧」の有効性について検証しています。

報告内容は、①あくまでも中間報告であること。（今後検証は継続される）、②空間噴霧に対する注意喚起であること、③経産省では「次亜塩素酸ナトリウム」とは別のものであると明記していることから、決して、塩素消毒自体の有効性が否定されたものではないことをご承知おきください。

※ 経済産業省 HP

新型コロナウイルスに有効な界面活性剤を公表します（第二弾）

2020年5月29日 同時発表：（独）製品評価技術基盤機構

▶ その他

（独）製品評価技術基盤機構で行っている消毒方法の有効性評価について、第4回検討委員会が開催され、新たに2種類の界面活性剤が、新型コロナウイルスに対して有効と判断されました。

本件概要

新型コロナウイルスの感染拡大に対応し、家庭や職場におけるアルコール以外の消毒方法の選択肢を増やすため、独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）は、経済産業省の要請に応じ、消毒方法の有効性評価を実施しています。（4月15日ニュースリリース）

昨日5月28日、有識者による検討委員会（第4回）が開催され、塩化ベンゼトニウム（0.05%以上）、塩化ジアルキルジメチルアンモニウム（0.01%以上）について、新型コロナウイルスに対して有効と判断されました。

これにより、有効と判断された界面活性剤は次の7種となりました。

- 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム（0.1%以上）
- アルキルグリコシド（0.1%以上）
- アルキルアミノオキシド（0.05%以上）
- 塩化ベンザルコニウム（0.05%以上）
- 塩化ベンゼトニウム（0.05%以上）【5月28日追加】
- 塩化ジアルキルジメチルアンモニウム（0.01%以上）【5月28日追加】
- ポリオキシエチレンアルキルエーテル（0.2%以上）

これらの界面活性剤の活用について、ポスターを作成している（関連資料①）ほか、NITEのサイトに洗剤のリストを掲載していますので、御活用ください。

なお、「次亜塩素酸水」[※]については、今回の委員会では判定に至らず、引き続き検証試験を実施することとされました。また、事務局において、「次亜塩素酸水」の販売実態や空間噴霧について現時点での事実関係をまとめ、報告しています。（関連資料②、③）

さらに詳しくは、関連リンクにあります独立行政法人製品評価技術基盤機構サイトに、検討委員会資料として公表しておりますので、あわせてご覧ください。

※従来から新型コロナウイルス対策として物品の消毒に使用することが推奨されている「次亜塩素酸ナトリウム」とは別のものです。

※ 立行政法人製品評価技術基盤機構 HP

新型コロナウイルスに有効な界面活性剤を公表します(第2弾)～物品への消毒方法の選択肢がさらに広がります～

公表日：令和2年5月29日(報道発表資料)

本件の概要

発表日：令和2年5月29日(金)

タイトル：新型コロナウイルスに有効な界面活性剤を公表します(第2弾)

発表者名：独立行政法人製品評価技術基盤機構 消毒手法タスクフォース

資料の概要

NITE(ナイト) [独立行政法人 製品評価技術基盤機構 理事長：辰巳 敬] は、第4回「新型コロナウイルスに対する代替消毒方法の有効性評価に関する検討委員会」を5月28日に開催し、新型コロナウイルスを用いた候補物資の有効性評価のための検証試験の結果について二回目の検討を行いました。

その結果、前回の委員会で新型コロナウイルスに対して有効であると判断された住宅・家具用洗剤等に使用される5種の界面活性剤に加え、新たに2種の界面活性剤が新型コロナウイルスに対して有効であると判断されました。

1. 独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE)は、経済産業省の要請を受け、新型コロナウイルスの感染拡大に対応し、家庭や職場におけるアルコール以外の消毒方法の選択肢を増やすため、消毒方法の有効性評価を進めています。(4月15日ニュースリリース)。このため、5月1日から国立感染症研究所、学校法人北里研究所とそれぞれ新型コロナウイルスを用いた共同検証試験に着手しています。

2. 昨日5月28日、第4回検討委員会を開催し、新型コロナウイルスを用いた候補物資の検証試験のうち現在までに得られた結果について検討を行いました。

その結果、前回有望であると判断された塩化ベンゼトニウム(0.05%以上)及び塩化ジアルキルジメチルアンモニウム(0.01%以上)について、新型コロナウイルスに対して有効と判断されました。

これにより、有効と判断された界面活性剤は次の7種となりました。

- ・直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム(0.1%以上)
- ・アルキルグリコシド(0.1%以上)
- ・アルキルアミンオキシド(0.05%以上)
- ・塩化ベンザルコニウム(0.05%以上)
- ・塩化ベンゼトニウム(0.05%以上)【5月28日追加】
- ・塩化ジアルキルジメチルアンモニウム(0.01%以上)【5月28日追加】
- ・ポリオキシエチレンアルキルエーテル(0.2%以上)

3. なお、「次亜塩素酸水」については、今回の委員会では判定に至らず、引き続き検証試験を実施することとされました。

4. 今回の検証により、新型コロナウイルス対策のための家庭や職場における消毒方法の選択肢がさらに広がることを期待できます。

これらの界面活性剤による身近な物の消毒に関するポスターを用意しましたので、ご活用ください。

また、ホームページで公表している「効果が確認された界面活性を含む洗剤等のリスト」について、今後も最新の情報に更新してまいります。

5. 本発表に関連する資料

- ・NITEのHPから公表
- ・第4回検討委員会資料(検証試験結果、次亜塩素酸水に関するファクトシート他)
- ・ポスター「ご家庭にある洗剤を使って身近な物の消毒をしましょう」(2種の界面活性剤を追加したもの)

(参考) 検討委員会について

「新型コロナウイルスに対する代替消毒方法の有効性評価に関する検討委員会」

委員長： 松本哲哉 国際医療福祉大学教授(日本環境感染学会副理事長)

委員会の構成： 国立研究所/大学の学識経験者、関係団体他

オブザーバー： 厚生労働省、経済産業省他

* 「次亜塩素酸水」等の販売実態について(ファクトシート)

* 「次亜塩素酸水」の空間噴霧について(ファクトシート)